

「あぜみち第1報」

★ 草丈・茎数は平年並み～やや多い！

★ 茎数が多い場合は早めの中干しを！

1 君津地域の生育概況

平年に比べて、3月22日～28日の気温は高く推移しましたが、3月29日～4月3日は気温が低い日が続き、発芽の遅れや苗の生育に影響を及ぼしました。その後の気温は、平年並み～高い日が多く、苗は順調に生育しました。

4月下旬以降、気温は平年並み～やや高く推移したことから、移植後の苗の生育は順調に進み、草丈は平年並み～やや高く、茎数はやや多い～多い傾向にあります。

平年に比べ生育が進みやすい気候となっていますので、茎数に注意しつつ、有効茎数が確保されたら分けつ過剰になる前に中干しを開始しましょう。

2 生育調査ほの調査結果※（5月20日）

品種		田植え日	葉令 (枚)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/㎡)
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	R7年	4/20	7.8	29.0	13.3	203.5
	平年値	4/19	7.0	27.5	11.8	185.0
	平年比	+1	+0.8	105%	113%	110%
ふさこがね (木更津市)	R7年	4/20	7.8	28.0	19.9	300.5
コシヒカリ (君津市)	R7年	4/26	6.6	30.0	10.2	159.5
	平年値	4/24	5.5	28.9	9.4	146.2
	平年比	+2	+1.1	104%	109%	109%
粒すけ (君津市)	R7年	4/27	6.8	25.0	6.7	109.7

※平年値について

コシヒカリは令和2～6年の平均、ふさおとめは令和3～5年の平均です。ふさこがねは昨年度から、粒すけは本年度から調査地点を変更しているため、本年のデータのみの記載となります。

※調査地点の植付密度の違いから、株当たり茎数と面積当たり茎数の間で平年値との関係が異なる場合がございます。面積当たり茎数を優先して参照ください。

-郵便で配信している方へお願い-

通信費削減のため、「あぜみち」の配信を、郵便から、電子メール又はFAXへの切替えを進めています。変更いただける方は、下記まで御連絡ください。

連絡先 中村（なかむら）h.nkmr98@pref.chiba.lg.jp 0438-23-0299（電話）

3 これからの管理のポイント

① ほ場ごとに茎数を確認し、中干しの適期実施

今年は、天気の良い日が多く、茎数は平年並み～多いほ場が多いです。茎数が確保されたら、根の生育を促すため、また過繁茂を防ぐため中干しを開始しましょう。表1に示されている目標茎数に到達したら、中干し開始の目安となります。中干しは、稲の生育に大きな影響を及ぼし、かつ生育制御ができる重要な管理作業です。中干しの強さは、田面に軽い亀裂が入り、田面を歩いても長靴が沈まないくらいを目安とします。

目標茎数に達していないほ場では、引き続き浅水管理で茎数確保を目指しましょう。ただし、中干しが遅れないように注意しましょう。過剰な分けつを防ぐことは、白未熟粒の発生防止につながります。

表1 品種別の中干し開始時期の目安

品種	植付時期	中干し開始目標茎数		
		砂質	壤質	粘質
ふさおとめ	4月20日	480本/m ² (27本/株)	480本/m ² (27本/株)	440本/m ² (24本/株)
ふさこがね	4月20日	360本/m ² (20本/株)	360本/m ² (20本/株)	360本/m ² (20本/株)
コシヒカリ	4月20日	320本/m ²	310本/m ²	300本/m ²
	5月1日	(18本/株)	(17本/株)	(16本/株)
粒すけ	4月20日	472本/m ² (26本/株)	440本/m ² (24本/株)	

※ () 内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安

※極端な疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがあります

② ばか苗病の発生・対策について

「ばか苗病」が種子生産ほ場やその周辺ほ場で発生すると、種子として出荷できなくなります。千葉県内の種子生産ほ場の半分以上は君津地域に存在しています。県産優良種子の安定生産のためにも、「ばか苗病」を本田で確認した際には、抜き取ってほ場から離れたところで処分し、新たな感染源とならないよう御協力をお願いします。

③ 病害虫の発生に注意！

農林総合研究センター作成の病害虫発生予報第2号(5月14日公表)によると、水稻の病害虫の発生は、スクミリンゴガイ、ヒメトビウンカは「多」、いもち病、ばか苗病は「やや多」、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシは「並」、イネクロカメムシは「やや少」の予報となっています。

ここ数年、いもち病の被害が多くなっています。今後、いもち病の発生を防ぐため、補植用の置き苗は早めに処分しましょう。